

第16年度 オンラインと集合の併用開催

実践！ 信頼性・品質技術 研究会

経験豊富な講師・委員の指導
多様な業種の参加者メンバーとの議論や意見交換から…

問題解決の糸口を探り
スキルと人脈を得る !!

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

「実践!信頼性・品質技術研究会」参加のおすすめ

グローバル競争に勝ち抜く答えがここにある!

実践!信頼性・品質技術研究会に多くの企業の方に参加していただき、様々な品質・信頼性の諸問題に関する議論の場としてご満足いただけるよう活動を進めて参りました。

近年では、製造・生産拠点の海外(特に新興国)へのシフトに加え、OEM・ODM・EMSの活用、マーケットのグローバル化に伴う顧客ニーズの多様化、使用環境や使われ方の変化、地球環境への配慮、海外製品規格の取得など、取り上げれば数限りなく企業活動を取り巻く環境は時々刻々と変化しています。

品質・信頼性分野でも、問題の複雑化が進み、機械・電気・化学などの單一分野から複数分野へ横串で解決を進めるケースも少なくありません。また海外への生産委託や調達先管理など品質管理のグローバル化が進み、統合MS・ソフト品質・ネットワークセキュリティ・教育・コンプライアンス・安全性の観点でも品質保証の重要性が高まっています。

グローバル競争を勝ち抜くためには、品質・信頼性の問題に対する迅速な行動が不可欠です。材料・部品レベルまで遡った原因究明と対策、システム・マネジメントレベルでの問題解決や業務プロセスを考慮した再発防止を図ることが重要であり、企業の品質・信頼性業務に携わる技術者には、より広く、深い知識が求められるようになってきています。

本研究会は、様々な業種や企業の現場で活躍している技術者が集まり、品質や信頼性に関する最新の事例や課題をベースに議論を行う場です。研究分科会で、グローバルに「ものづくり」を進める先端企業の経験と知識を持つた運営委員と共に、各企業の状況に合わせた最適なソリューション「勝ち抜く答え」を一緒に導き出していきましょう。

タイトルに「実践!」とある通り、実際に皆さんがあげている課題を一般論だけではなく、実践できる形で深く議論できることが本研究会の最大の特徴です。受け身で情報を収集するのではなく、Give & Takeの精神で積極的に議論に参加して、自らスキルを向上させたいと思っている方のご参加を強くおすすめいたします。

参加者の声

(ご所属は執筆当時: 2021年3月)

気付きを得るために貴重な場となっています。

進藤 丈文明 様

TOTO株式会社
環境建材事業部
環境建材品質保証部
環境建材品質推進グループ
グループリーダー



RQ研究会には2017年度から参加をしております。上司の代理で参加したことがきっかけです。初めて参加したとき、ボルトの緩みというテーマで様々な視点で意見交換をし、自らの知識の浅はかさに気付かされたことを覚えております。

技術者であれば誰しも一度は解決困難な課題に直面したり、一応は課題解決したものこの解決策で良かったのであろうか…という経験があると思います。その時このような課題は自社だけなのであろうか、他社ではどのように対応したのであろうかと思ったことはないでしょうか。課題は上位概念化すれば、共通なこと多く、他社から解決のヒントが得られることもあります。

RQ研究会は品質と信頼性に携わる技術者が約50社から集まっている研究会です。「実践」と名前がついているように、講演会のように受け身で聞くのではなく、自らが課題を持ち寄って議論や意見交換を行う場です。そのため、実際に自分が抱えている課題を参加者で議論することで解決につなげていく、また、参加者が抱えている課題の議論に加わることで自らの成長の糸口につなげていくことができます。

品質や信頼性の課題を抱えている皆様、是非一緒に議論や意見交換をしましょう。

参加者の声

(ご所属は執筆当時: 2026年1月)

品質保証を“楽しい”に変える学びの場

林 孝昌 様

ヤマハ発動機株式会社
品質保証本部LM品質保証統括部
製品品質保証部 シニアチーフ



私は2024年から先輩の勧めで研究会に参加しています。

最初は緊張しましたが、研究会の雰囲気が穏やかで和気あいあいしているので、すぐに溶け込むことができました。業種や立場を超えて品質向上について前向きに議論できることは非常に刺激的で、毎回「そんな考え方や手法があるの!?」「そんな取組をしているの?」と新しい気づきやヒントを得ています。

参加前の私は、自社の常識やルールに知らず知らずのうちに縛られ、改善も限られた範囲でしか考えられていませんでした。しかし、研究会で他社の事例やノウハウを直接伺い議論することで、「これは自社でも課題じゃない?」「同様の改善ができないかな?」と、ポジティブかつ多角的な視点で業務に取り組む意識へと変化しました。品質保証の仕事は、実は非常にクリエイティブで楽しいものだと改めて認識できたことは、私自身の大きな成長だと感じます。

何より、研究会で品質保証に関する議論を皆様と交わすことは非常に有意義であり、楽しい時間です。こうした場は他にあまり存在しません。参加をご検討されている方は、ぜひ参加頂き一緒に楽しく品質のお話をしましょ!

日科技連Webサイトに**参加会社の声**を掲載しています。 URL: <https://www.juse.or.jp/reliability/>



実践!信頼性・品質技術研究会

運営小委員会 委員長

三井 直人

三菱電機株式会社

静岡製作所 パッケージエアコン製造部

品質管理課 課長

参加されるみなさんが主役です!

参加者のみなさんから信頼性に関する諸問題を提起していただき、それを他の参加メンバーおよび研究会をサポートする信頼性専門技術者（運営委員）と議論する中で、問題解決の糸口を見出していくます。

各研究分科会は、“Give and Take”の精神に基づいて、相互に問題提起、事例発表を行い、議論します。研究会の性格上、秘密事項は除き、活発な議論を行っています。安心して議論を行うため、参加メンバー・運営委員は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”や“自分が抱える問題や課題の相談”ができるのは“本研究会ならでは”と言えます。

活動内容

本研究会はメンバーおよび運営委員により構成されています。

活動年度は毎年5月に始まり翌年3月に終了します。

本研究会のメンバーは、下記の研究会（例会）に参加して、研究活動を行います。

年間活動スケジュール

参加者同士のネットワークづくりのため、オンラインと集合形式（日科技連・東高円寺ビル）の併用で開催します。また、実施内容は、都合により内容が変更となる場合があります。

	開催形式	開催日	活動内容		
			10:00～12:00		13:00～16:00
第1回	集合 (オンライン可)	2026年	5月22日(金)	10:30～12:00 オリエンテーション	12:00～16:00(12:30～13:30昼食) 研究分科会
第2回	オンライン		6月26日(金)	全体研究会 特別講演会	研究分科会
第3回	オンライン		7月31日(金)	研究分科会	研究分科会
第4回	集合 (オンライン可)		9月4日(金)	10:30～12:30 テーマ別分科会(ワークショップ)	13:30～17:00 研究分科会
第5回	集合		11月6日(金)	見学会(企業・団体への見学)	午前もしくは午後予定
第6回	オンライン	2027年	1月29日(金)	全体研究会 特別講演会	研究分科会
第7回	集合 (オンライン可)		3月5日(金)	10:30～12:30 研究分科会	研究分科会(13:30～16:15) 全体懇親会(16:15～17:30)

※集合開催の開始時刻は10:30、見学会開催見合わせの場合は、研究分科会またはテーマ別分科会を実施します。

— オンラインで「積極性」や「参加意欲」は保てる？

コロナ禍により、この6年で培ったオンライン研究会のノウハウをさらに進化させてまいります。双方向のオンラインツールを使用し、カメラをonにすることで参加メンバー、運営委員ともに表情が確認できますので、程よい緊張感と集中力が保たれ集合開催と変わらない活発な討議が可能です。また、集中力を保てるよう、こまめに休憩を挟み進行します。



1 移動時間や交通費がかからない！

交通費・宿泊費など、開催地の問題で参加・派遣をあきらめていた方も参加できます



2 参加率アップ！

インターネットの環境とパソコンがあれば、場所を選ばず参加できるので、会社からでもリモートワークでも出席できます

1 全体研究会

メンバーと運営委員が一堂に会する「全体研究会」では、特別講演、質疑応答を通じてメンバー相互の啓発、交流を図ります。全体研究会は「特別講演」を中心に年2回開催します。

年	特別講演テーマ、講演者
第15年度 (2025年)	リチウムイオン電池の信頼性／品質保証 和田 哲明 氏(品質技術実践研究所)
	失敗を予見する未然防止、失敗から学ぶ再発防止 奈良 敏也 氏(日産自動車株式会社品質設計技術革新部 品質戦略・マネジメントグループ認定Vエキスパート)
第14年度 (2024年)	自動車部品の信頼性技術の変革～EV時代を見据えて～ 澤田 昌志 氏(株)アイシン TQM・ISO推進部 主査)
	ヒューマンエラーの観点から品質不祥事を考える ～人は正しい(合理的、損失が少ない)と判断して行動する～ 河野龍太郎 氏(株)安全推進研究所 代表取締役所長)

2 研究分科会

※都合により内容が変更になる場合がございます。

研究分科会は、本研究会活動の中心であり、参加メンバーが主役で開催月の7回全ての回で実施します。分科会の構成は、「メカ」や「エレキ」といった技術領域のボーダーレス化に伴い、「材料」や「マネジメント」「システム」など、信頼性技術の原理・原則的な色合いの濃い構成にしています。

- 〔第1研究分科会〕 材料・部品解析分科会
- 〔第2研究分科会〕 部品・デバイス(電子部品)分科会
- 〔第3研究分科会〕 機器・システム分科会
- 〔第4研究分科会〕 品質保証分科会



「研究分科会」では、参加メンバーのみなさんが抱える様々な信頼性に関する諸問題について、事実やデータを交えて運営委員とともに議論します。問題を正確に把握し、具体的な改善策や解決方法を考えていくといった実践的な信頼性の展開を図るのが大目的です。

したがって第1～第4の分類は、あくまで主として議論したいテーマであり、関連して改善したい内容に発展したり、一見脇道にそれたように思える議論を自由闊達に交わすことでも、本分科会においては重要なことと考えています。

また、第4研究分科会は品質保証担当者、責任者が集い、QA・QCに関する情報交換を活発に行っています。

3 テーマ別分科会(講演・ワークショッピング)

「テーマ別分科会」は、「研究分科会」とは別の視点から選定した信頼性・品質保証テーマについてのワークショッピングです。自由な発想で運営委員・メンバーから提案していただいた興味あるテーマの中から、3～5のテーマを設定し、希望の「テーマ別分科会」に参加します。また、メンバーからの要望があれば、2つの研究分科会による「合同分科会」を開催することも可能です。「テーマ別研究会」「合同分科会」とともに、通常の研究分科会と同じくメンバー参加型で、事例やデータを持ち寄つて議論をします。自分の属している「研究分科会」以外の研究分科会メンバーや運営委員と、異なる側面から信頼性の諸問題を議論し、解決方法を考えしていくことができ、見聞を大いに広めることができます。

●2025年度実施した「テーマ別分科会テーマ」

「最新のはんだ信頼性評価、従来手法とのギャップ、現場での課題に加えて実装も」、「製品や部品の保管・保存および輸送環境で発生する課題とその対策」、「信頼性課題に対する信頼性試験と故障解析の役割」、「再発防止や未然防止活動における「過去トラブルの活用」」

4 見学会(企業・団体への見学会)

「百聞は一見にしかず」という言葉通り、座学だけでは幅広い知識は得られません。

時には外に出て、信頼性や品質に関連する最新の技術や設備、他社の取り組み等に実際に触れることも有効です。「見学会」では、主に都内周辺に拠点を置く企業や公的機関の研究所、機体整備工場や分析／評価装置メーカーなどを訪問し、見学とディスカッションを行うことで、知見を高めます。日常の仕事の中では得られない経験をする絶好の機会となること、請け合いです。

— ANA機体工場見学 —

▼見学風景



▼交流会風景



研究分科会・活動紹介

(敬称略、順不同 委員所属はP.8参照)

第1研究分科会 材料・部品解析分科会

主査 平本 抽 副主査 小原田 一真 委員 大西 久男、楠 博行 特別顧問 木村 忠正

本分科会は、信頼性の創り込み・向上を材料や部品のレベルまで遡って研究する分科会です。ある製品がお客様の使用中に不具合を生じた場合、表面的には機器・システムの問題あるいはモジュール・デバイスの問題に見えるかもしれません。しかし、問題の真因を追求していくと、多くの場合は材料・部品の問題にたどり着きます。本分科会では、材料・部品の解析技術・評価技術を切り口に、メンバーが持ち込む信頼性や品質の諸問題の本質は何か、最適な解析・評価手法とその原理は如何なるものか、得られた結果からどう考察し課題解決へ繋げるか等について、幅広い業界・分野の技術者が集って討議を行っています。

初回に、参加メンバー各自が抱える課題や疑問・要望などをお伺いし、以降の討議テーマを設定します。2回目以降では、各回のテーマに関連した事例を持ち寄って頂き、全員で共有し議論します。また、今まさに直面している喫緊の業務課題など突発的な事例も随時取り上げます。これまでのテーマ例を以下に示します。

①故障／劣化のモードやメカニズム

金属材料の腐食／マイグレーション、樹脂材料の割れ／変色／アウトガス、部品への加熱／吸収／振動、異物／コンタミネーション等

②分析技術／計測技術

各種顕微鏡(SEM, X線CT, OM)による形態観察、各種分光法(EDX, FT-IR, XPS)による表面分析、熱分析(DSC, TG-DTA, TMA)による物性値取得等

③信頼性評価方法

加速試験／寿命予測、スクリーニング、シミュレーション／AI活用、特殊雰囲気／環境、規制対応等

④解析マネジメント

基礎概念～新規探索、標準化／ルール化、データベース／ノウハウ構築、技術伝承／人財育成、課題／異文化対応力等

資料1枚(黒塗り可)でも文章1行でも自ら積極的に発信する姿勢と、メンバーの発表に対して耳を傾け応答する意欲により、相互に価値ある人の繋がりを得ることができます。原理原則に従って状況を正しく理解し、適切な評価検証を行い、得られたデータの意味することを的確に論ずることができる、製品の品質保証や信頼性の創りこみに役立力を一緒に培っていきましょう。ぜひみなさんのご参加お待ちしております。

第2研究分科会 部品・デバイス(電子部品)分科会

主査 柏木 謙一 副主査 馬場 正太郎 委員 瀬戸屋 孝、三井 直人、横川 慎二 顧問 山口 浩二

本分科会は、エレクトロニクス製品に使用される部品に焦点を当てた研究分科会です。

デバイス・電子機器・ユニットの各メーカー、企業それぞれのメンバー/運営委員が立場を越えて、本音で議論ができる、発言しやすいユニークな分科会です。

運営委員は、国内デバイスマーケタ、電気電子機器メーカーの品質・信頼性について豊富な経験を持った方々が担当し、参加されるメンバーは、設計・技術・生産・購買・品質保証・品質管理を実践している技術者の方々で構成されています。

取り扱うテーマは、「部品・デバイスの品質・信頼性技術全般」です。

①定例テーマ討論

初回に討論したいテーマを参加メンバーから立案していただき、開催回ごとに討論テーマを年間計画として定めます。2回目以降は、そのテーマに従って、自社での取組みや事例などを参加メンバーが持ち回りで発表し合う形式で討論を進めさせていただきます。内容によって、本分科会で十分に討論がしきれない場合は、テーマ別分科会や他分科会との合同討論の実施などで、柔軟に対応させていただき、幅広い討論を行います。

②緊急テーマ討論

メンバーの企業内で直面している電子機器や電子部品で起こっている品質・信頼性の具体的な問題を持ち寄り、参加する研究員/運営委員が持ち合わせる幅広い知見に基づいた多面的な議論が行われます。報告書に明記されることのない真の原因や、その解釈、波及性なども議論されます。また、開催日以外でも課題や困りごとを分科会のマーリングリストで発信いただければ、参加メンバーが参考情報を持ち寄り、活発な議論が行われます。

③討論テーマのご紹介

昨年度、様々な議論を行いましたが、そのキーワードの一例をご紹介します。

- 各種部品固有の品質・信頼性の諸問題
- 部品調達・サプライヤー監査の手法
- 外部リソースの活用方法(ファンダリー・他社との連携)
- 信頼性試験・加速試験の手法・信頼性試験規格(業界標準)
- 品質管理・信頼性設計・ディレーティング
- 電子部品の構造と壊れ方
- カスタム部品・外部リソース・パワー半導体の壊れ方
- 技術伝承、教育・人材育成

研究会は、参加いただくメンバーみなさんが主役です。ギブアンドテイクの精神で、積極的な議論により、研究会を通じて相互理解を深め、多様な知見から問題解決力を身につけていきましょう。

第3研究分科会 機器・システム分科会

主査 長野 史裕 副主査 岩下 健児 委員 勝田 信、原島 瑞靖

本分科会は、システム製品をお客様に提供するために日々取り組む機器システムメーカーのエンジニアが集まり、日常の疑問や新しい視点を発見するための技術的な活動を行う場です。

扱う製品は複数の要素が組み合わさった集合体であり、その複雑さが課題を難しくしています。例えば、品質・信頼性の高い部品や材料を使っても、必ずしもシステム全体の品質・信頼性が保証されるわけではありません。逆に、品質・信頼性が並な部品や材料からでも、高信頼性のシステムを構築することは可能です。実際、定期的な保全が行われるシステムでは、最新の半導体部品よりも旧式のリレーを使う方が高いアベイラビリティを実現できる場合もあります。巨大なシステムにおいて、部品の信頼性の総和を超える信頼性を確保し、重大事故を防ぐ設計を行うことこそ、信頼性技術者の腕の見せ所です。

ここで重要なのは「対象となるシステムをどう捉えるか」です。本分科会では、電子機器、メカトロニクス製品、住宅機器、鉄道など、幅広い分野のエンジニアが業界を超えて議論します。こうした議論を通じて、異なる分野や業界の知見に触れることは、参加者の気づきや課題解決の大きな助けとなります。

議論のテーマは、参加メンバーの関心に基づき、モノづくりにおける日常的な課題を取り上げます。対象製品にとどまらず、製品を取り巻く上位システム（社会インフラなど）との関係性も視野に入れます。各メンバーが興味あるテーマを担当し、当日その話題を紹介することで議論が広がります。不具合事例の原因解析から、データの活用まで幅広いテーマを扱う場となっています。

昨年度議題のキーワード

評価試験、市場ストレス、国際規格、ロスコスト、故障解析、データ分析、DR、FMEA

特に市場ストレスはメンバーの興味が高く、2回にわたり議題に挙がりました。また、直近で発生している問題を持ち込んで議論を行うこともあります。

斬新な活動をしておりまして、自社で日頃から悩んでいることを参加企業のメンバーと論議していくことでヒントを見つけていただきたいと思います。ぜひ、みなさんのご参加をお待ちしております。

第4研究分科会 品質保証分科会

主査 山森 英一 副主査 向井 剛 委員 味岡 桃太郎、木村 功

本分科会では、QMS体制（組織論含む）、製品安全・リスクマネジメント、開発プロセス関連（DR、FMEA含）、調達品品質管理、品質問題の再発・未然防止（過去トラ活用含）、品質不正防止、品質人財育成など品質保証活動の全般に関するテーマを討議する分科会です。最近では、AIの品質保証業務での活用についても討議を行っています。

研究会メンバーには、コーポレートや事業の品質保証部門に所属されている方が多く参加されています。コーポレートの立場や事業部の立場から、各テーマ課題について、各社の取り組み事例を紹介いただき、情報共有し、改善の方向性を討議しています。

主な討議テーマは以下のとおりです。

①QMS体制構築について

QMS活動は、製品開発から日常管理までの各段階で各部門が行う幅広い活動です。各活動での課題に対して、PDCAを回し、スマイルアップをいかに図るかのテーマについて議論します。品質保証部門の組織体制・全社統制構造、製品保証計画・PPAP、市場品質情報収集（体制・システム）、外部・内部監査（リモート監査・監査員教育・海外工場の監査）、品質不正防止などの課題を取り扱います。

②品質問題の再発防止・未然防止について

品質問題を出さない為に品質管理ツールの効果的な活用方法をテーマについて議論を行います。変更点管理、再発防止手法（なぜなぜ分析・FTA・過去トラDB等）、未然防止手法（設計・工程FMEA・DRBFM・SSM等）、統計的品質管理（SQC）、信頼性技術手法（ワイルド解析等）、リスク分析手法など様々なツールを取り扱います。

③品質人材に対する人財育成について

技術伝承や人材不足といった視点からの効果的な品質人材育成や品質管理教育等のテーマについて議論を行います。

上記以外にも各社の課題に応じてテーマ設定を行い、議論を行います。

本研究会のような異業種の品質保証部門の方々が集まる場は、多くありません。「品質保証とは何ぞや」を考え、明日の品質保証のありたい姿と一緒に議論しましょ。

みなさまのご参加をお待ちしております。

参加会社一覧(本研究会の前身「RDT研究会」の参加会社含む)

160社を超える企業のみなさんに参加いただいています!

愛三工業(株)	三洋電機(株)	日本パナトロニック(株)
(株)アイシン	ZACROS(株)	日本フィリップス(株)
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	GEヘルスケア・ジャパン(株)	日本プレシジョン・サーフィツ(株)
アイシン精機(株)	(株)JVCケンウッド	日本モトローラ(株)
愛知時計電機(株)	新コスモス電機(株)	(社)日本冷凍空調工業会
(株)アイテス	新電元工業(株)	(株)ノーリツ
アイホン(株)	新日鐵住金ステンレス(株)	(株)ハイオス
アイワ(株)	新日本無線(株)	パナソニック(株)
旭化成(株)	スタンレー電気(株)	パナソニックコミュニケーションズ(株)
旭化成エレクトロニクス(株)	住友大阪セメント(株)	パナソニック電工(株)
旭化成マイクロシステム(株)	住友電気工業(株)	パナソニック電工施設照明(株)
アジレント・テクノロジー(株)	住友ベークライト(株)	ハリソン東芝ライティング(株)
アズビル(株)	セイコーワンツル(株)	(株)日立小平ケミコン
(株)アマダミヤチ	セイコーワンズ(株)	(株)日立製作所
アンリツ(株)	積水化学工業(株)	(株)日立製作所 情報・通信システム社
アンリツネットワークス(株)	ソニー(株)	福島アビオニクス(株)
(株)イシダ	ソニーイーエムシーエス(株)	富士ゼロックス(株)
宇宙開発事業団	ソニーメージングプロダクツ&ソリューションズ(株)	富士ゼロックスエンジニアリング(株)
エイブリック(株)	ソニーグループ(株)	富士通(株)
AGC(株)	ソニーグローバルマニュファクチャリング & ポレーションズ(株)	(株)富士通研究所
エスアイアイ・セミコンダクタ(株)	ダイキン工業(株)	富士電機(株)
エスペック(株)	ダイキン電子部品(株)	富士電機アドバンストテクノロジー(株)
NTTエレクトロニクス(株)	ダイニチ工業(株)	富士電機システムズ(株)
(株)荏原製作所	太陽誘電(株)	藤森工業(株)
(株)LSI Logic Japan Semiconductor	タカラスタンダード(株)	プライムアースEVエナジー(株)
大阪ガス(株)	(株)ダスキン	プラザ工業(株)
大崎電気工業(株)	館山デバイス(株)	古河電気工業(株)
OLED青森(株)	(株)タムラ製作所	古野電気(株)
沖エンジニアリング(株)	(株)ディスコ	(株)本田技術研究所
沖電気工業(株)	TDK(株)	松下電器産業(株)
オムロン(株)	テクダイヤ(株)	松下電工(株)
オムロンアミューズメント(株)	デンカ(株)	松下冷機(株)
オムロンセミコンダクターズ(株)	(株)デンソー	マレリ(株)
オムロンヘルスケア(株)	(株)デンソーウエーブ	三菱ガス化学(株)
オリエンタルモーター(株)	(株)東海理化	三菱重工業(株)
オリンパス(株)	東光(株)	三菱電機(株)
オリンパスメディカルシステムズ(株)	(株)東芝	(株)村田製作所
鹿島建設(株)	東芝デバイス&ストレージ(株)	(株)モリック
(株)金沢村田製作所	TOTO(株)	森山工業(株)
(株)カネカ	東北日本電気(株)	矢崎計器(株)
上田日本無線	東洋通信機(株)	矢崎部品(株)
(株)カヤバ工業	(株)トキメック	(株)安川電機
(株)カルソニックカンセイ	トステム(株)	(株)山武
(株)関西電力	トヨタ自動車(株)	ヤマハ(株)
(株)キーサイト・テクノロジー・インターナショナル(同)	(株)豊田自動織機	ヤマハ発動機(株)
菊水化学工業(株)	ナイルス部品(株)	ヤマハマリン(株)
キヤノン(株)	ナブテスコ(株)	ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
九州松下電器(株)	日産自動車(株)	ヤンマー(株)
京セラSLCテクノロジー(株)	日産車体(株)	(株)ヨコオ
(株)共和電業	日新電機(株)	横河電機(株)
グローブライド(株)	(株)ニチック	Lattice Semiconductor
グローリー(株)	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)リコー
(株)ケアコム	日本アビオニクス(株)	(株)ルネサス小平ケミコン
コクヨ(株)	日本ガイシ(株)	(株)ルネサステクノロジ
コクヨS & T(株)	日本電気(株)	ローム(株)
コニカミノルタ(株)	日本特殊陶業(株)	
(株)小松製作所		

※会社名は参加当時の社名を掲載(2025年12月作成)

第16年度運営委員(順不同・敬称略)

(2026年1月現在)

本研究会を支える委員の皆様です。品質・信頼性・品質保証に関わるスペシャリスト集団であり、貴重な最新情報の発信、的確なアドバイス、ファシリテートを行います。

役割	研究分科会	委員名	会社名
委員長	第2	三井 直人	三菱電機(株)
副委員長	第3	原島 瑞靖	富士フィルムビジネスイノベーション(株)
副委員長	第4	副主査 向井 剛	三菱重工業(株)
委 員 第1	主 査 平本 抽	ソニー(株)	
委 員 第1	副主査 小原田一真	(株)東レリサーチセンター	
委 員 第1		大西 久男	大阪ガス(株)
委 員 第1		楠 博行	TOTO(株)
特別顧問 第1		木村 忠正	電気通信大学名誉教授
委 員 第2	主 査 柏木 謙一	本田技研工業(株)	
委 員 第2	副主査 馬場正太郎	富士電機(株)	
委 員 第2		瀬戸屋 孝	(一財)日本電子部品信頼性センター
委 員 第2		横川 慎二	電気通信大学
顧 問 第2		山口 浩二	富士電機(株)
委 員 第3	主 査 長野 史裕	(株)リコー	
委 員 第3	副主査 岩下 健児	SCオートモーティブエンジニアリング(株)	
委 員 第3		勝田 信	日本信号(株)
委 員 第4	主 査 山森 英一	(株)東芝	
委 員 第4		味岡桃太郎	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)
委 員 第4		木村 功	TOTO(株)

参加要領

◆活動期間◆ 2026年5月～2027年3月

◆開催日程◆ (年7回)

回数	開催日
第1回例会	2026年 5月22日(金)
第2回例会	2026年 6月26日(金)
第3回例会	2026年 7月31日(金)
第4回例会	2026年 9月 4日(金)

回数	開催日
第5回例会	2026年11月 6日(金)
第6回例会	2027年 1月29日(金)
第7回例会	2027年 3月 5日(金)

◆開催形態◆

参加者同士のネットワークづくりのため、オンライン開催回と集合開催回(オンライン参加可)の併用で開催します。オンライン会議ツールは「Microsoft Teams」を使用しますが、システムダウンなど通信トラブルが発生した場合、また、必要に応じてZoomを使用します。

集合開催会場: 日本科学技術連盟・東高円寺ビル(東京都杉並区高円寺南1-2-1)

◆参 加 費◆

一般・会員とも 165,000円(税込)/1名

■2025年度(15RQ)研究会からの継続企業 143,000円(税込) / 1名
組織の人材育成教育の継続と、個人のステップアップ、プラットフォームアップのために「継続参加」を強力にサポートしております。継続参加企業様特典をご利用ください。

本研究会メンバー特別特典

2026年7月16日～17日に開催する「信頼性・保全性・安全性シンポジウム」に特別参加費で参加できます！ 参加費 41,800円のところ→特別参加費 19,800円(税込/1名)

◆申込方法◆

研究会Webサイト「参加要領・申込」からお手続きください。申込締切:2026年5月13日(水)

同業他社やコンサルタント業の方のご参加はお断りする場合があります。

【開催通知・請求書について】

- 開催の3週間前までに参加者様宛「開催通知」をE-mailでお送りします。
- 請求書は開催通知と別途で連絡担当者様宛、電子請求書(PDFダウンロード形式)をお送りします。
- 参加費は原則として請求書発行後2ヶ月以内に請求書に記載の指定口座へお振込みください。

免責事項: 天災地変や伝染病の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、公官庁の指示等、当財団が管理できない事由により、研修内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、当財団では責任を負いかねます。

研究会お申込に関するキャンセルの取り扱いとお願い

・お申込み後、やむを得ない事由により参加できなくなった場合には、できるだけ代理の方のご参加をお願いいたします(ただし、研究会活動期間中の参加者変更は不可)。

・お客様のご都合で、参加をキャンセルされる場合には、セミナー受付にE-mailで事前にご連絡ください。その際、次のキャンセル料をご負担いただきます。

【キャンセル料】○営業日前とは、土日祝祭日、日科技連の休業日を除いた日数のことです。

・研究会第1回例会開催日の7～1 営業日前の 17:00までのキャンセル: 参加費の50%

・研究会第1回例会開催日の1 営業日前の 17:00以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合: 参加費の100%

◆内容についてのお問合せ◆

一般財団法人日本科学技術連盟 RQ研究会担当 TEL: 03-5378-9850 / E-Mail: re-group@juse.or.jp